

綿半レポート

Watahan Report*



2026年3月期 報告書

2025年4月1日 ▶ 2026年3月31日



天竜川和船下り

綿半の1年

2026年3月期 綿半のできごと

2025

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2026

1月

2月

3月

「gocaクレジットカード」 提供開始

お客さまの利便性向上を目的に、綿半グループご利用で最大2.5%還元のクレジットカードを提供開始しました。わたりーと一緒にお得生活を満喫しよう！



木質バイオマス発電事業が 始動

未利用木材を燃料に再生可能エネルギーを作り出すことで、森林資源を有効活用し、持続可能な地球環境の保全に取り組んでいます。



苗木の自社生産事業を開始

種苗生産への参入により、苗木の安定確保と供給体制の強化が図られたほか、「植える・育てる・伐る・使う」という循環型林業の全工程をグループ一貫体制で担えるようになりました。



食用サボテンブランド 「SABOVEG」デビュー！

過酷な環境で育つウチワサボテンは、日本の食文化にも合うスーパーフードです。日本での普及を目指し、店舗販売やPR活動を推進しています。



農業へ本格参入

長野県の農業に本格参入し、6次産業化を推進しています。地域連携を図りながら、食の「育てる・つくる・届ける」を一つに繋ぎ、綿半らしい農業の形を実現していきます。



「筑北ファーム」が稼働

スマート技術を導入し、環境配慮とアニマルウェルフェアを意識した次世代養豚施設が稼働しました。人が立ち入らないことで病原菌の持込みリスクが低減し、生産性が向上しています。



Black Stump Technologies社 と戦略的パートナーシップを締結

再生可能エネルギーを活用した移動式ハイブリッド発電システム「Solarator®」を日本市場へ本格展開することで、建設現場等の脱炭素化推進に貢献します。



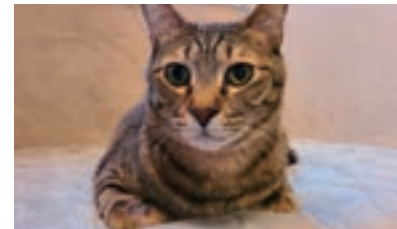
「畑と台所 須坂市ブース」 OPEN

特産品や青果の販売、観光情報の発信等を通じて長野県須坂市の魅力を発信するブースを、イオンモール須坂1FにOPENしました。



綿半塩尻店に保護猫の 常設譲渡施設がOPEN

犬のトリミング・ペットホテルや動物病院も併設され、ペットの“困った”をまとめて解決することが可能になりました。



変わりゆく世界の中で、 長野から新しい「自立」の形を築く

代表取締役社長
野原 勇

420年の歩みと、 今こそ必要な「変化」への決断

——長野を拠点とした「面」の展開。その将来像がいよいよ形になってきた手応えは？

綿半グループは「地域に寄り添い、地域と共に発展する」ことを目的に、各事業という「点」を連携させて「線」へと繋ぎ、地域全体を支える「面」へと広げてきました。たしかに長野県においては、私たちが展開しているそれぞれの事業が結びつき、地域社会のインフラとして機能し始めていることを実感しています。

これが、安土桃山時代から420年以上にわたって受け継いできた、力を合わせ、分かち合い、響きあう

「合才の精神」であり、私たちの変わることのない根幹です。そして、この伝統を守り抜くために、その時代に合わせて柔軟に姿を変えてきたことが、長い歴史の中で学んできた綿半グループの「知恵」となり、当社の中に蓄積されています。

昨今の激しい世界情勢の前では、描いていた計画ですら見直しを迫られることもあるでしょう。しかし、この大きな時代のうねりは、綿半グループが次の400年を歩むための大切な教訓であり、新たな知恵を学ぶ場でもあります。経営者として、外部環境の変化に常に目を配りながら、必要であればこれまでの方針を180度転換する決断をすべきだと考えています。変えないために、変わり続ける姿勢こそが、伝統を未来へ繋ぐ道だからです。



わたびーが解説! ①

「6次産業化」

林業や農業などの1次産業から、2次産業である商品加工や3次産業の販売・サービスまでを一貫して手掛け、新たな付加価値を生み出すこと。

「買い負ける日本」という現実、 どう立ち向かうか

——世界情勢の不透明感が、綿半の進める「6次産業化」<わたびーが解説! ①>の重要性を一段と高めていますね。

これまでは、安くて質の良い資源を世界中から集め、効率よく加工して届けることが、正しい経済の形だと信じられてきました。しかし、今や日本は、エネルギーや食料を世界で「買い負けてしまう」ような厳しい現実と直面しつつあります。

特に危機感を抱いているのは、目に見えない、**サプライチェーン**<わたびーが解説! ②>の脆弱さです。例えば、農作物を育てるための肥料の原料や家畜を育てるための飼料などを海外に依存していることで、世界で物流の寸断が起これば、私たちの食卓はすぐに影響を受けてしまいます。

そこで綿半グループは、木材や飼料、食料などの「衣食住」の根幹を、信州という地域の中でいかに確

保していくかに挑戦し続けてきました。今、この定めた道筋は間違いではなかったと確信しています。

長野県を「自給自足のモデル」にするための 具体的な歩み

——農業の構造改革など、具体的な「自立」への取り組みの進捗は？

前回のレポートでもお伝えした養豚事業は、着実に進展しています。加えて、新たに「農事組合法人綿半農場」を設立し、さらに踏み込んだ農業の構造改革に着手しました。実は、長野県の食料自給率は、カロリーベースで見ると半分にも満たないのが現状です。これは、野菜や果物の生産が盛んな一方、生きていくのに不可欠なお米や穀物の生産が少ないからです。

日本の農業がこれまで行ってきた「小さな規模で、それぞれが懸命に頑張る」という形では、これからの厳しい時代を乗り越えるのは難しいかもしれません。そこで私たちは、生産の現場から加工、そして自社の店舗という「お客さまに届ける出口」までを、一貫

わたびーが解説! ②

「サプライチェーン」

原材料等の調達から製造、消費者の手元に製品が届くまでの「一連の流れ」を指す言葉。



して繋げる仕組みを構築してきました。

綿半グループのネットワークを最大限に活用し、地域の中で資源と食料が循環する新しい自給自足の形を作っていきます。

地域の課題を魅力に変える、新たな挑戦

——観光やペット事業を「第4の柱」として強化される狙いを教えてください。

はい。これは単なる観光事業ではなく、いままでの知見を活かして、地域の課題を「地域の魅力」に変える新たな取り組みです。現在日本では、急速に少子高齢化が進んでいます。とくに田舎ではその影響が顕著に表れており、田舎の「今」は、地方都市の近未来、そして日本の未来だと捉えています。

綿半には、地域の方々に綿の栽培を教え、流通させたり、明治維新の頃には外部から金物を持ち込んで、地域を発展させたりと、内から外へ・外から内へ、「地域の魅力」を高めるために尽力してきた歴史があります。

私たちも日本の次を作るため、まずは原点である南信州を中心に、「地域の魅力の再構築」を行い、その魅力を外部の方へ伝えていくべきであると考えています。

また、「衣食住」を支える事業は、ペットに対して

も広がっています。長野県内でも深刻な社会問題となっている野生鳥獣による被害に対して、駆除されてしまう鹿などを単に処分するのではなく、質の高いペットフードとして活用する事業を推進しています。

さらに、グループで運営する動物病院では、人間ドックのような精密検査ができる体制を整え、大切な家族の健康を高度な医療で支えています。このように地域が抱える課題を見つけ出し、それを事業の力で解決しながら、新しい魅力として提供していくことが、私たちが目指している「面」の広がりです。

長野から日本全国、そして世界へ

——長野で構築されたこの「循環モデル」は、他地域や世界へも波及していくのでしょうか。

長野県で今私たちが取組んでいるモデルは、決して一地域で終わるものではなく、日本全国、そして世界へと繋がっていく大きな可能性を秘めています。

その鍵の一つが、現在、建設が進む「三遠南信自動車道」です。開通すれば、信州の山々と静岡の豊かな海が一本の太い道で繋がります。この開通に先んじて稼働させた大規模な物流センターは、単なる倉庫ではなく、災害時に地域の皆さまが避難でき、物資を届ける拠点となる役割も持ちます。

こうした循環モデルは、私たちの舞台を世界へと

拡大してくれます。円安には厳しい側面もありますが、日本の素晴らしい農産物やサービスを海外の方々に知っていただく絶好の機会にもなります。日本の自然や伝統が持つ本質的な価値は、海外から高く評価されており、外貨を稼ぐ力を再びこの地域へと還元できれば、長野県をもっと豊かで魅力的な場所にしていけるはずです。

未来の「社長」たちと
共に歩むための次世代への投資

——地域子どもたちへの投資に力を注がれる、その想いをお聞かせください。

事業は、いつの時代も「人」の力が重要です。そこで、次の世代へとバトンを繋いでいくために、地域子どもたちへの投資も積極的に行っています。

綿半グループが行っている「こども社長体験」や「子ども食堂」への支援は、単なる社会貢献活動ではありません。地域子どもたちが早い段階から「経営者の視点」を持つことで、この国の将来を支える大きな力になると信じているからです。そして、次世代が憧れるような地域社会と事業を創り出すことこそが、今の私たちに課せられた使命だと思っています。

私たちは今、原材料の値上がりや物流のコスト高といった非常に厳しい環境の中にいます。こうした時こそ、綿半グループの真価が問われる時です。お客さ

まに喜んでいただける価値のあるものを、長年磨いてきた「エブリデイ・ロープライス」＜わたびーが解説！＞の精神で、誠実にお届けしていきます。

厳しい環境下だからこそ、同じ志を持つ仲間と力を合わせ、組織としての効率を高めていく「合才」の力が必要です。綿半グループは、これからも点と点を繋ぎ、長野県という大地にしっかりと根を張りながら、そこで育んだ「面」を、日本へ、そして世界へと力強く広げてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、私たちのこの終わりのない挑戦を、これからも一番近くで見守り、支えていただければ幸いです。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

わたびーが解説！

「エブリデイ・ロープライス」

特売期間を設けずに、年間を通じていつでも同じ低価格で商品を販売すること。





綿半で輝く 「人財」

綿半グループを担う
「人財」の魅力を紹介します。

若い頃からスポーツ好きで、現在の趣味はゴルフ・麻雀・バイクとアクティブ派。
好きな食べ物は蕎麦で、安曇野では「手打ちそば くるまや」がおすすめ。
元上司に言われた言葉「真摯たれ」を胸に日々仕事に取り組んでいる。

綿半ウッドパワー株式会社
取締役所長 **石井 幸一**



設備のSOSをいち早く察知する、木質バイオマス発電所のお医者さん

ートラブルがあれば昼夜問わず駆けつける！蕎麦と火力発電を愛する石井所長の奮闘の日々ー

◆火力発電のエキスパートとしての歩み

工業高校卒業後、中部地方の電力会社に入社し、25年間主に火力発電所のタービンの保守管理を行っていました。その後長野に戻り、電力関連の営業マンへ。

今の仕事につくきっかけは、定年後に「ソヤノウッドパワー（現：綿半ウッドパワー）を立ち上げるから面接を受けてみないか」と声をかけられたことです。

火力発電一筋の人生ですが、実は私、中学生の頃は料理人を夢見ていたんです。

しかし、父に高校は出て欲しいと言われて、夢を諦め工業高校に入りました。

でもそこで機械いじりの楽しさを知り、今がありますか

ら、火力発電が天職だったのだと思います。結果オーライですね笑。

◆新たな発電事業に携わることへの戸惑いは

燃料が化石燃料から木質チップになるだけで、火力発電という仕組み自体は変わらないので違和感はありませんでした。逆に、今まで培った技術が活かせるし、社会人人生の最後に関わる仕事として面白いと思い、入社しました。

◆一般的な火力発電所と 木質バイオマス発電所の違いは

どちらも燃料を燃やして水を沸騰させ、発生した蒸気

の力でタービンを回して発電します。発電に使った蒸気は冷却して再利用するのですが、その冷却方法に違いがあるんです。

一般的な火力発電所は、大量の「水」を使って冷却します。そのため、水資源の豊富な海沿いに建設されています。

一方で木質バイオマス発電所は、「空気」を使って冷却します。燃料となる、間伐材や製品製造時の端材で作った木質チップを集めるため、建設場所は山の中です。ここが大きな違いです。

綿半ウッドパワーでは、発電所の運転や保守を専門業者に委託しながら、私を含め5～6名の直営スタッフで管理しています。

◆日々の業務で特に大切にしていること

発電所の稼働を止めないことです。年2回のメンテナンス期間以外は休まず24時間体制で電気を作り続けています。日々、故障に繋がる兆候をいち早く見つけ、他の技術者とも相談しながら、発電を止めずに対処するのが主な仕事です。

発電所は「人間」と同じです。人間が風邪をひくと、発熱したり体が震えたりしますよね。発電所も異常が発生すると、機械の温度が上がったり振動が出たりと必ず壊れる前の「予兆」があるんです。そのサインをいち早く掴み、大きな故障に至る前に対処することが重要であり、「腕の見せ所」でもあります。

◆これまでには大変な苦労もあったのでは

操業当初は、冬場に設備や燃料が凍って供給が止まるトラブルがあり、正月や深夜に呼び出されて対応したこともありました。対応は大変ですが、トラブルが発生すると

「よーし、やってやるぞ〜！」と使命感とやりがい沸々と湧いてきます笑。

◆綿半グループの一員となったことでの変化は

グループ内で「木を植え、育て、家を建て、余った木材で発電する」という木の循環ができつつあります。この大きな流れの中に自分たちがいることは、非常に面白いと感じています。

◆今後の目標はありますか

この発電所が30年、40年と永続し、林業の再生と共に歩んでいくことが私の「野望」です。そのために、まずは効率化を進めてメンテナンス期間を1日でも減らし、発電する期間を延ばしていきたいと思っています。

◆最後に

綿半ウッドパワーのある場所は、2月には畑の土が砂嵐のように舞い、春には大量の花粉が舞う、なかなか過酷な場所です笑。でもね、自然が豊かで食べ物も美味しいとても良い所なんですよ。発電所の設備も想像以上に大きくて迫力があります。ぜひ皆さまも一度見学に来ていただければ嬉しいです。





売上高、営業利益、経常利益は過去最高を更新…

- 建設事業が順調に推移したことにより増収増益



売上高

1,354 億円

前年同期比
1.4%増

経常利益

39.0 億円

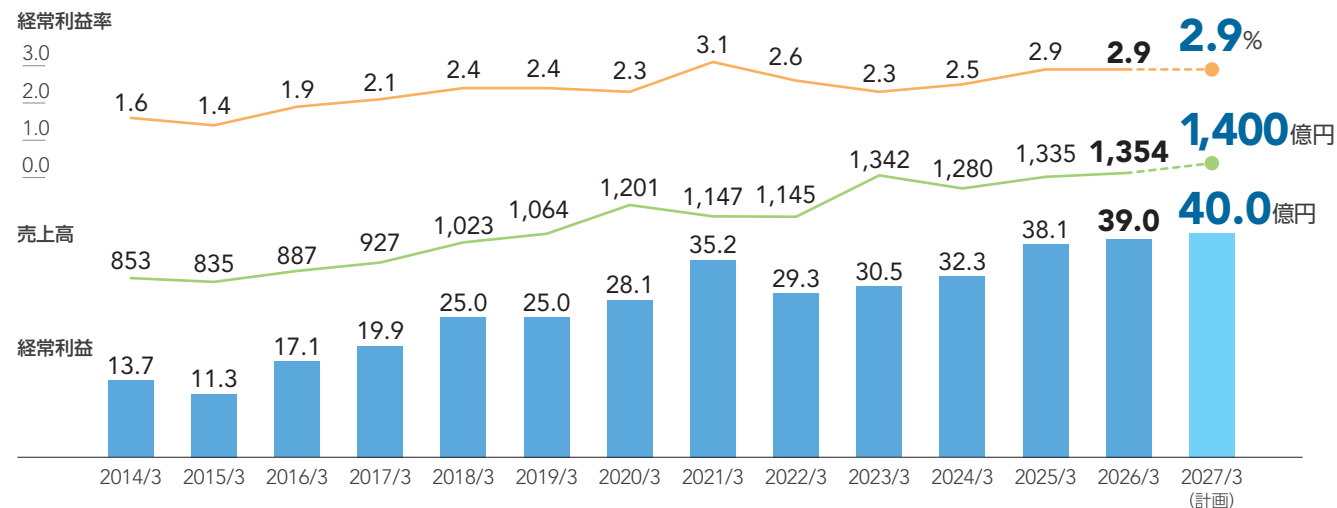
前年同期比
2.4%増

中期経営計画の進捗



2027年3月期
目標値

売上高 1,400 億円
経常利益 40.0 億円
経常利益率 2.9 %



セグメント別情報



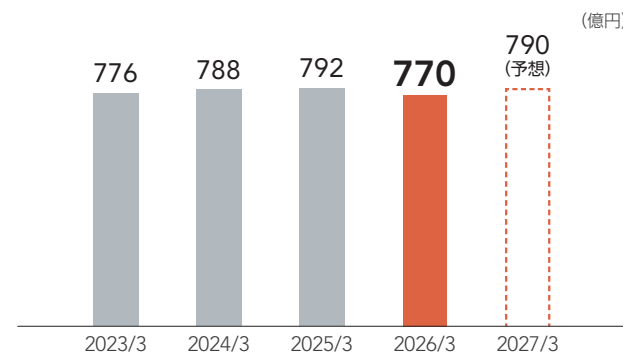
小売事業

スーパーセンター・ホームセンター・食品スーパー・ドラッグストア・インターネット通販等を展開しております。

売上高

770 億円

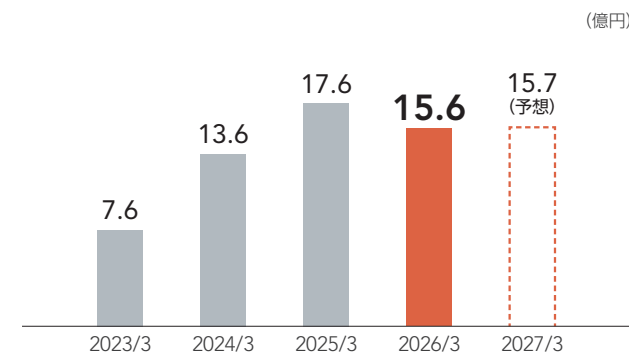
前年同期比
2.8%減



セグメント利益

15.6 億円

前年同期比
11.3%減



- 複数店舗での改装による売場縮小や、前期の防災特需による反動減等の影響により減収減益

TOPICS

12月1日、調剤薬局が綿半スーパーセンター長池店にOPENしました。

生鮮食品からホームセンター商材・一般医薬品までを扱う長池店に調剤薬局が加わることで、調剤の待ち時間を店舗でのお買い物に有効活用いただけるようになり、利便性が向上しました。これからも、地域のお客さまに寄り添い、支持され続ける店舗づくりを推進していきます。



6次産業化特集

綿半 × 農業 に注目!



綿半は、生産から販売までを一貫して手掛けることで、お客さまに食の安心・安全をお届けしながら、長野県の1次産業の持続的な発展を後押ししていくことを目的に「6次産業化」を推進しています。



綿半が農業に本格参入!?

2026年1月より、綿半が農業事業へ本格参入しました！
自然豊かな長野県筑北村にある「綿半農場」では、食用米・そば・長ねぎ・いちごなどの生産を行い、地域に根ざした農業を展開しています。
今後は、地域の皆さまとの連携を深めながら、食の「育てる・つくる・届ける」を一つに繋ぎ、綿半だからこそできる農業のかたちを実現していきます。



地産地消！ グルメ惣菜に「長野県産コシヒカリ」を使用

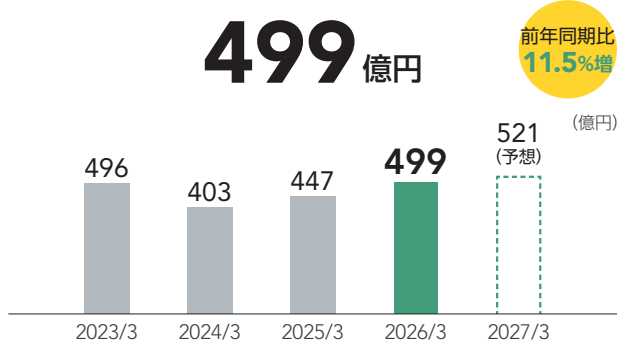
綿半店舗のグルメ惣菜に使用されるお米は、農家さんから直接仕入れた「長野県産コシヒカリ」を使用しています。
綿半はこれからも地産地消を推進し、地域の農業活性化に取り組んでいきます。



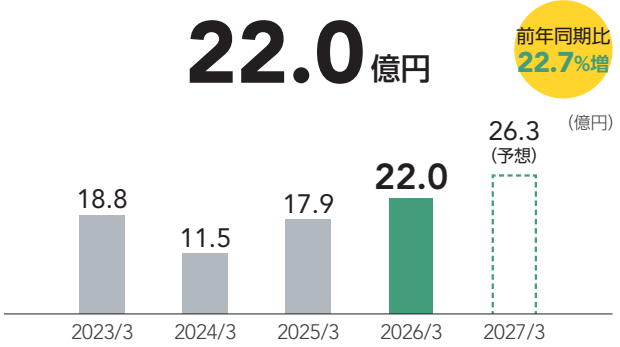
建設事業

木造建築、鐵構、屋根外装改修、自走式立体駐車場等を展開しております。

売上高



セグメント利益



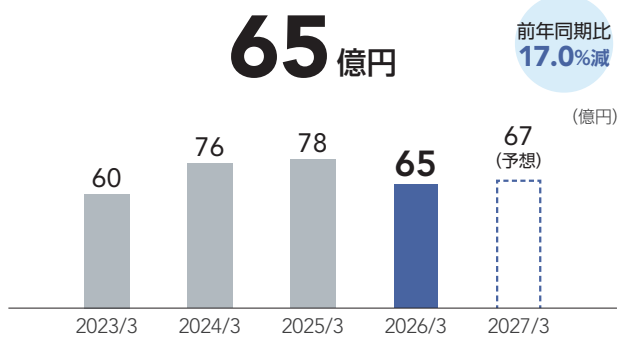
● 駐車場および鐵構分野で工事が順調に推移したことにより増収増益



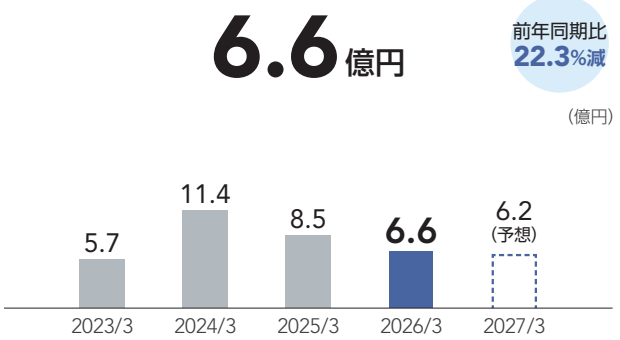
貿易事業

世界20カ国以上から天然由来の医薬品・化粧品原料や食品の輸入販売、不妊治療薬の原薬製造等を行っております。

売上高



セグメント利益



● 医薬品分野における一部原薬の製造工程見直しによる販売見合せが影響し減収減益

綿半の サステナビリティ



アニマルウェルフェアの取り組み

常設型譲渡施設 「保護ねこ譲渡 もふもふ塩尻」オープン

2023年5月より、綿半は各地域の動物愛護団体と連携し、店舗を使った保護動物の譲渡会を定期開催しています。しかし私たちが暮らす地域には、さまざまな事情により新しい家族を探している保護動物がまだまだ多く存在しています。

そこで綿半スーパーセンター塩尻店では、「ペット生体の陳列販売」を取りやめ、2026年2月22日に常設型譲渡施設「保護ねこ譲渡 もふもふ塩尻」をオープンしました。運営は地域の保護動物団体の方々が行い、事情により保護された猫たちを受け入れるシェルターと、里親希望者との出会いの場として機能します。オープン直後から、連日多くの譲渡希望やボランティア希望のお客さまが訪れ、保護猫と地域を繋ぐ場として広がりはじめています。

綿半は、保護動物の殺処分ゼロの実現に向け、今後もさまざまな活動を進めていきます。

店舗が
保護猫と地域を
繋ぐ場に

未来を担うこどもたちへ向けた取り組み

体験内容 (スケジュール)

- オリエンテーション
- 社長就任式
- 人事U：
給与明細作成体験
- 安全管理U：
手洗い体験
- 財務経理U：
収支計算ゲーム
- 総務U：
わたびーの仲間
キャラクター作り・
のし袋作成体験
- バイイングU：
弁当ネーミング体験
- プロダクトU：
商品開発
プレゼン体験
- 長池店 店舗視察
- 修了式

未来の社長あつまれ！ こども社長体験を開催

未来へ羽ばたくこどもたちに、実際の企業活動に触れながら「仕事」「お店」「お金」について学んでもらうことを目的に、3月19日、綿半スーパーセンター長池店・長野本社にて、小学4年生から中学3年生を対象にした体験型プログラム『こども社長体験』を開催しました。

当日は、事前の面接に通過した小学生4名が参加し、商品陳列やお菓子のポップ作成のほか、発売予定のパスタの商品名を考えたり、給与や収益の計算を行うゲームを行ったりしました。

パスタの商品名検討会では、試食しながら皆でアイデアを出し合い「にん肉肉ジューシーパスタ」に決定！最後は修了証を貰い、こども社長体験は終了となりました！

参加したこどもたちからは「名刺交換を初めてやり、想像以上に楽しかった！」や「弁当の名前を考えるのが楽しかった」など喜びの声がたくさん寄せられました。

私たちも、こどもたちの笑顔とエネルギーに触れ、充実した時間を過ごすことができました。

今後も、未来を担うこどもたちに向けた取り組みを継続していきます。



こども社長たちが名付けた
「にん肉肉ジューシーパスタ」
は、5月1日～5月31日に限定
販売されました！



担当者コメント

今回の『こども社長体験』では、こどもたちが自分で考えて行動する姿がとても印象的でした。売場チェックや体験を通して、こちらの想定以上の発想や気づきがあり、学びの多い機会となりました。

『無限∞から揚げ 醤油味』が 第17回からあげグランプリ®にて

金賞受賞!

一般社団法人 日本唐揚協会が主催する「第17回からあげグランプリ®」の「中日本スーパー惣菜部門」において、綿半の看板商品『無限∞から揚げ』が金賞を受賞しました!



グルメバイヤーが語る 開発秘話

元々、綿半のから揚げは“**から揚げ専門店のクオリティ**”を目指して開発しており、社内外から好評をいただいております。しかし「もっと美味しいから揚げが作れるはず!」という想いから、「**からあげグランプリ®金賞受賞**」を見据えて**再び一からの開発に挑みました**。最適な鶏肉の産地・部位の模索、衣やスパイスの調整、油の温度など、数えきれない試作と検証を重ねました。おそらく、一生分では足りないほどのから揚げを食べ尽くしたと思います笑。



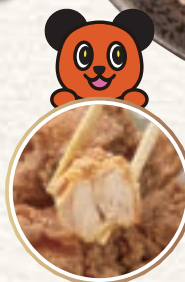
とまらない!
無限∞から揚げ

醤油味

複雑に醸す2種類の醤油と、強めに効かせたおろし生姜。家庭では真似できないプロの技、ここに極まれり!

にんにく味

にんにくが強くても何が悪い。ピリッとコショウがたまらない。味も旨さも、突き抜けました。



無限∞から揚げに込めた

こだわり

目指したのは、「**また食べたくなるから揚げ**」です。シェフと共に細部まで改良を重ね、老若男女問わず愛されるように仕上げました。惣菜はご家庭に持ち帰り、温めなおして食べていただくことがほとんどです。冷めても温め直しても、**できたとに近い美味しさを楽しむ**よう、鶏肉の味付けや衣のバランスを徹底的に追求しました。

Pick up

表紙写真紹介 天竜川和船下り

長野県飯田市を流れる「天竜川」を舞台に、100年以上の歴史と伝統を受け継ぐ、全国でも歴史が古い観光和船下りです。迫力ある急流と、穏やかな流れの中で楽しむ四季折々の自然美が、日常を離れた特別なひとときを演出します。飯田市にお越しの際は、ぜひご体験ください。



綿半ホールディングス株式会社

長野県飯田市北方1023-1 TEL:0265-25-8155 (代表)

<https://watahan.co.jp/>



この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

